

澤村 4～6月は15%の増収

産地への発注量も回復

澤村の業績が回復基調に乗っている。清水民生社長によると、4～6月の売上高は前年同期比15%増と好調。これに伴って、主要仕入れ先である北陸産地への発注量も拡大した。

上期（2012年10月～13年3月）は前年同期比減収減益だったが、下期に入って反転した。とくにテキスタイル事業の売り上げが20%増と大きく回復した。好業績を象徴するように、4～6月の北陸産地への発注量は前年同期比15%増え、今年1～3月対比でも12～13%増だった。7月以降もこの流れが継続する見込みという。

業績回復の主要因は為替の円安化。輸出の引き合いが急増し、対米インナー素材や副資材関連などが成約に至ったほか、国内景気の持ち直しによって車両資材関連も回復に転じたという。一方、アパレル関連は依然として停滞ムードが強い。製品事業がそれほど伸びなかったのはこのためだ。